

第6回 鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)結果概要

「第6回鹿屋市短期経済観測調査(かのや短観)」を実施し、結果をとりまとめましたのでお知らせします。

概 況	
業 況 D I	<p>○今期は4(良い>悪い)と、前期(▲11)より改善し、プラスに転じた。</p> <p>▶ 全ての業種で改善しており、業種別では、建設業(前期▲41→今期▲33)と宿泊・飲食業(前期6→今期10)はやや改善、農水産業(前期11→今期22)と製造業(前期▲18→今期▲4)、卸売・小売業(前期6→今期24)は改善した。運輸業(前期▲44→今期▲11)は依然マイナス圏に留まるものの大幅に改善、不動産業(前期▲14→今期33)は大幅に改善しプラスに転じている。</p> <p>▶ 前年同期(▲8)と比較すると、改善している。</p> <p>○来期は▲6(良い<悪い)と、やや悪化し、マイナスに転じる見通し。</p> <p>▶ 業種別では、農水産業と製造業、卸売・小売業は悪化する見通し。特に卸売・小売業(今期24→来期0)は大幅に悪化すると見込まれる。</p>
生 産 高 D I	<p>○今期は▲11(増加<減少)と、前期(▲12)とほぼ横ばいとなった。</p>
売上・完工高 D I	<p>○今期は6(増加>減少)と、前期(▲10)より改善し、プラスに転じた。</p> <p>▶ 全ての業種で改善しており、業種別では、卸売・小売業は28と前期(6)より改善、建設業も▲22と依然マイナス圏に留まっているものの前期(▲47)より改善した。不動産業も33と前期(0)より大きく改善している。</p> <p>○来期は▲6(増加<減少)と、悪化する見通し。</p> <p>▶ 業種別では、農水産業と製造業は悪化、卸売・小売業は6と今期(28)より大幅に悪化すると見込まれる。</p>
製品・商品在庫 D I	<p>○今期の在庫の過不足感は「過剰」が9%、「適正」が77%、「不足」が14%、DIは▲5(過剰<不足)となり、前期(▲7)とほぼ横ばいとなった。</p>
製(商)品販売単価 D I	<p>○今期は6(上昇>低下)と、前期(▲1)よりやや改善した。</p> <p>▶ 業種別では、建設業は▲22と依然マイナス圏に留まっているものの、前期(▲47)より大幅に改善した。</p> <p>○来期は3(上昇>低下)と、やや低下する見通し。</p> <p>▶ 業種別では、宿泊・飲食業が22と今期(0)より大幅に上昇する見通し。一方、農水産業と卸売・小売業は低下すると見込まれる。</p>
原材料仕入単価 D I	<p>○今期は27(上昇>低下)と、前期(28)とほぼ横ばいとなった。</p> <p>▶ 業種別では、建設業(前期53→今期33)と卸売・小売業(前期33→今期12)は大幅に低下している。</p> <p>▶ 一方、農水産業(前期8→今期34)と不動産業(前期20→今期50)は大幅に上昇しているが、不動産業の製(商)品販売単価DIは0と仕入単価の上昇が販売単価に転嫁されていない状況であることがうかがえる。</p> <p>○来期は33(上昇>低下)と、やや上昇する見通し。</p> <p>▶ 業種別では、運輸業(今期17→来期50)と不動産業(今期50→来期75)は大幅に上昇すると見込まれる。</p>
資金繰り D I	<p>○今期は▲8(楽<苦しい)と、前期(▲13)よりやや改善した。</p> <p>▶ 業種別では、建設業は▲11と依然マイナス圏に留まるものの前期(▲35)より大幅に改善、不動産業(前期0→今期33)も大幅に改善した。</p> <p>▶ 一方、宿泊・飲食業は(前期▲6→今期▲30)と大幅に悪化した。</p> <p>○来期は▲15(楽<苦しい)と、やや悪化する見通し。</p> <p>▶ 業種別では、製造業以外の全ての業種で横ばい、もしくは悪化となっており、特に卸売・小売業は▲12と今期(11)より大幅に悪化しマイナスに転じる見通し。</p>
雇用人員 D I	<p>○今期は▲40(過剰<不足)と、前期(▲43)よりやや改善した。</p> <p>▶ 依然として全ての業種でマイナスとなっており、業種別では、特に建設業は▲61、運輸業は▲89と、雇用の不足感が強い。</p> <p>○来期は▲42(過剰<不足)と、ほぼ横ばいの見通し。</p> <p>▶ 業種別では、卸売・小売業と不動産業、宿泊・飲食業でさらに悪化し、労働力不足の状態は続く見込まれる。</p>
損 益 D I	<p>○今期は▲6(好転<悪化)と、前期(▲10)よりやや改善した。</p> <p>▶ 業種別では、建設業(前期▲53→今期28)と不動産業(前期▲14→今期17)が大幅に改善した。</p> <p>▶ 一方、宿泊・飲食業は▲20と前期(13)から大幅に悪化しマイナスに転じた。</p> <p>○来期は▲10(好転<悪化)と、やや悪化する見通し。</p> <p>▶ 業種別では、卸売・小売業は6と今期(28)から大幅に悪化する見通し。</p>

【調査概要】

1 調査対象： 市内事業所 182 先

（ 農水産業 40 先、建設業 20 先、製造業 62 先、卸売・小売業 20 先
不動産業 9 先、運輸業 12 先、宿泊・飲食業 19 先 ）

回答数：142 件 回答率：78.0%

2 調査時期： 平成 29 年 1 月

3 対象期間： 平成 28 年 10～12 月期実績(今期)、平成 29 年 1～3 月期見通し(来期)

4 調査方法： 郵送方式

5 集計方法： 回答数の構成比を求めた上で、「良い」の構成比から「悪い」の構成比を引いて「D I 値」として指標化しました。

例えば、景況感の「良い」が 10%、「悪い」が 50%の場合、D I 値は「▲40」となります。「D I」(Diffusion Index、ディフュージョン・インデックス)は、企業や業界の景況感などを数値化した指標で、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」(日銀短観)などで用いられています。

6 質問項目： 業況、生産高、売上・完工高、在庫、仕入単価、資金繰り、雇用人員、損益

鹿屋市 市長公室政策推進課

〒893-8501 鹿児島県鹿屋市共栄町 20 番 1 号

T E L : 0994-43-2111 F A X : 0994-42-2001

m a i l : seisaku@e-kanoya.net

